

えほんの紹介

『ジルベルトとかぜ』

マリー・ホール・エッツ 作 たなべ いすず やく 富山房
 “ぼくはジルベルト そして これは ぼくとかぜの おはなし”

「おおーい!」とかぜがよんでいる。「かぜく〜ん」とジルベルトはあそびごとびだす。

野原で風船をとばしたり、かけっこしたりかぜと遊ぶ。舟を走らせ、シャボン玉をとばす。

でもジルベルトのかさをこわしたり、目にごみを入れたり、こまったこともする。それでも、ぼくとかぜはなかよし。

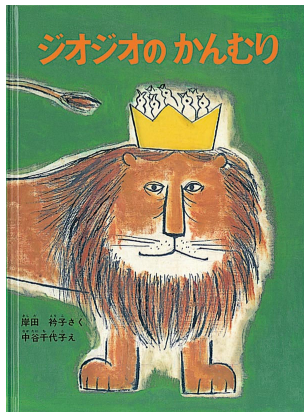
表紙は明るい黄色で、中身は黄土色の背景に柔らかな手書きの黒い線で描かれています。茶色の肌と黒い髪、そして風の動きは白で表現されています。

私たちも静かに風を感じてみましょう。風の声が聞こえてくるかもしれませんよ。



『ジオジオのかんむり』

岸田 衿子 さく 中谷千代子 え 福音館書店



ジオジオはライオンの王さまです。

ジオジオのかんむりが遠くの方でちかっと光ると、動物たちはみんなかくれてしまうほど強いライオンでした。でも、今ではジオジオはすっかり年をとってしまい、目も弱くなり、狩りもできません。だれかとゆっくり話してみたくなりました。

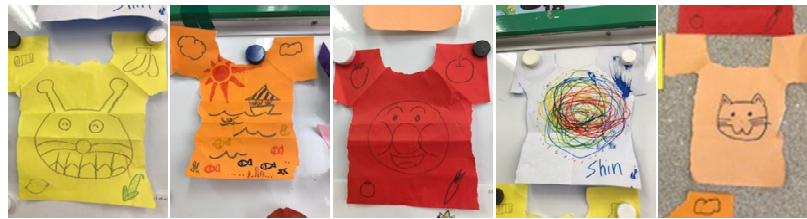
そこへ鳥がやってきて、生んだ卵がみんなひょうやへびにぬすまれてしまったと話しました。その時ジオジオはとてもいいことを思いつきました。それはジオジオのかんむりの中に巣をつくることでした。そこで鳥は安心して卵を生み、春になるとひなたたちはみんな元気に育ち、ジオジオのたてがみやしつぽいとまって鳴きました。

どうぞ最後のページの満ち足りたジオジオの表情を見てください。中谷千代子さんの絵があたたかく物語っています。

小さなおともだち

あるおはなし会の時、絵本の先生がみんなに色紙で船の折り方を教えてくださいました。

船ができると先生は船のお話をしてくれました。きいていると、「あらしの大風でマスト(帆柱)が折れたので、折り紙のマストの先をちぎりましょう」といい、ピリピリちぎりました。「あらしはまだまだおさまりません。とうとう船の先端と船尾もこわれてしまいました」といい、それもピリピリちぎります。たいへん、船はどうなるのでしょうか。すると、先生は「では、その船をひろげてみて」といいます。あら、ふしぎ! 開くと船長さんのTシャツができていました。それから、みんながTシャツにお気に入りの絵をかいて、すてきなTシャツを作りました。



オリジナル早口言葉

「ねこねこねこ子ねこ 子ねこねこねお団子こねる」

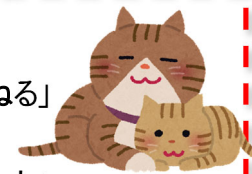


「バナナ ナバナ ナナバ おいしいバナナ」

「カッパ ハンダ ダンゴ ゴリラ ラッコ コアラでぽん」



「チイチョチュイ チイチョチュイ めじろなく」



季節のわらべうた
 (みんな) 坊さん 坊さん ど〜いくの
 (鬼) わたしは 田んぼへ稲かりに
 (みんな) わたしもいつしよにつれしゃんせ
 (鬼) おまえがくると じゃまになる
 (みんな) このかんかん坊ずくそ坊ず
 うしろの正面 だあれ?



(遊び方)
 目かくした鬼のまわりを、みんなは手をつないで歌いながら回ります。
 “このかんかん坊ずく”で止まり、みんなが鬼をたたきます。
 “うしろの”で鬼は後ろの人の名前を当てます。当てられた人が次の鬼に。
 ちよと稲刈りの季節、黄金色の稲穂が美しいですね。